

キャラクター名 須賀 文乃 (すが あやの)	プレイヤー名
---------------------------	--------

シンドローム	ウロボロス ウロボロス	ワークス	レネゲイドビーイングD	カヴァー	放浪の幼女
オプション		年齢	? (見た目12歳程度)	性別	女?
覚醒	素体	衝動	殺戮	初期侵食率	44 %
出自	強制開放	経験	死と再生	邂逅	ビジネス

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	
肉体	2	0	0			2	行動値	28
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	0	0			4	戦闘移動	13
社会	0	1	0			1	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			R C	10		交渉	1	
回避	1		知覚			意志	1		調達	10	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	3		情報:UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ:手配師					
情報収集チーム					

ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費	
傍らに立つ影	P	N			
峰崎鷹司	P 好奇心	N 憐憫			
カミサマ	P 尽力	N 憐憫			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			

最大財産P:	22	残り財産P:	19
--------	----	--------	----

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ヒューマンズネイバー	1		常時	至近	自身	自動	RB	
効果:	衝動判定+[Lv]D、侵蝕率基本値+5							
螺旋の悪魔	7	3	セットアップ	至近	自身	自動		
効果:	R間、攻撃力+[Lv*3]、BS暴走を受ける							
オリジン:レジェンド	2	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:	シーン間【精神】判定達成値+[Lv*2]							
原初の青:斥力跳躍	1	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	飛行状態で戦闘移動、移動距離+[Lv*2]m							
コンセントレイト:ウロボロス	3	2	メジャー					
効果:	C値-[Lv] (下限7)							
原初の●:魔獣の衝撃	3	3	メジャー	視界		対決	Dロイス	
効果:	攻撃力+5、判定ダイス+[Lv]個、R1回							
原初の赤:氷の塔	1	5	メジャー	視界	範囲(選択)	対決		
効果:	攻撃力+[Lv*3]、同ENG不可							
原初の灰:極死の地	1	8	メジャー	視界	シーン(選択)	対決	120↑、殺戮	
効果:	対象をシーン(選択)に、射程を視界に変更、HPを3D点失う、シナリオ1回							
影絵芝居	★							
効果:								
無面目	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

N市各所でフラフラと歩いている姿が目撃されている少女。その正体は、かつてN市で死亡し浮遊霊となった少女が、かつてこの地で信仰されていたレネゲイドビーイングの依り代となったことで、彼女自身もレネゲイドビーイングとなってしまったもの。

生前のことは何も覚えていないようだが、本人は特に気にした様子もなく、呑気に日々暮らしている。天然気味で、「～でしてー」という間延びした口調が特徴的。

彼女を依り代としているレネゲイドビーイングは神を自称しているが、現在は信仰が無くなくなり、消えかかっていたところを彼女を依り代として何とか現世に残っている状態。やたら尊大で傲岸不遜、だが同時に世話焼きでお人好しでもある模様。要はツンデレ。

何故か散歩しているだけでどこからか金目の物品が集まってくるので、お金には困っていない、どこか有り余っている模様。

N市では都市伝説「放浪幼女」として噂になっている

日く市内を放浪している幼女がいる

ある時は公園のベンチで日向ぼっこをしていた

ある時は別の公園で放課後の小学生と遊んでいた

またある時はショッピングモールの中で幸せそうな顔でシュークリームを頬張っていた

そんな彼女の名前はスガアヤノというのだが、市内の学校はおろか、市の戸籍謄本にもそんな名前は存在していない

一体彼女は何者なのだろうか、というもの

こんなところを一人でほっつき歩いている少女、こんなもの襲ってくれと言っているようなものじゃないか。

男はそん思い、舌なめずりをして彼女に背後から近づいていく。

ある程度まで近づいたところで、突如、男の背に悪寒が奔った。

否、悪寒などと言う生易しいものではない。

これは悲鳴だ。全身が悲鳴を上げているのだ。

ソレはやばい、危険だ、関わったら死ぬぞ、だから